

令和 6 年 5 月 6 日現在

機関番号：32816

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20257

研究課題名（和文）「多様性の尊重」と「社会正義の実現」を視点とした多文化教育の教材開発

研究課題名（英文）Development of Teaching Materials for Multicultural Education from the Perspectives of "Diversity" and "Social Justice"

研究代表者

中澤 純一（Nakazawa, Junichi）

東京未来大学・モチベーション行動科学部・講師

研究者番号：10963217

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、多文化教育の教材開発を行い、開発教材を実践にかけ、その教材開発の有効性を検証し、その検証を踏まえ、開発した教材を再構築することであった。地域の多文化共生の在り方を地域の結びつきや変容に着目しながら、多文化教育における教材開発の作成、過去に海を渡り世界の国々で移民として暮らしてきた日本人移民や日系人から地域に根差した多文化教育の教材開発の試みの重要性、児童生徒が地域の未来に関心を持ち、積極的に地域社会に参画し、多様性の尊重及び社会正義の視点から考察することのできる教材開発が求められることが明らかとなった。そこで、これらの知見を活かし教材開発及び実践を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、多文化教育の教材開発及び授業実践に関する資料収集、フィールド調査、教材開発、教材実践を中心に行った。

研究全体を通じ、単に多様性や差異性を尊重するだけでなく、マジョリティが劣なくして得た特権性について気づき、社会正義の実現をめざした、マジョリティである日本人生徒の意識の変容を促す多文化教育教材を開発し、教材実践を重ねながら、「多様性の尊重」と「社会正義の実現」の2つを視点としながら、生徒の意識の変容に迫る教材を再構築していくことの重要性が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop educational materials for multicultural education, put the developed materials into practice, verify the effectiveness of the materials development, and based on the verification, reconstruct the developed materials. The importance of developing educational materials for multicultural education rooted in the community from Japanese immigrants and people of Japanese descent, and the need to develop educational materials that enable students to be interested in the future of the community, to actively participate in the community, and to consider the future from the perspective of respect for diversity and social justice, became clear. The study also revealed that there is a need to develop educational materials that enable students to be interested in the future of their communities, to actively participate in their communities, and to consider issues from the perspective of respect for diversity and social justice.

研究分野：教育学

キーワード：多文化教育 多文化共生 多様性の尊重 社会正義の実現 教材開発 教材実践

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展に伴い、社会的・経済的にも国や地域の垣根を越えて、世界規模での関係性が結びつきを強めている。一方、人々の諸活動が国家の枠組みを越えて地球規模で展開されるようになり、トランスナショナルな人の移動が社会現象となっている。その結果、国家や地域において多文化化も進行している。

これまでの多文化教育における授業実践では、様々な文化を有する人々の多様性や差異性を理解し、受け入れ、尊重しようとする取り組みが多く行われてきた。しかし、単に多様性や差異性を尊重するだけでなく、マジョリティが労なくして得た特権性について気づき、社会正義の実現をめざした、マジョリティである日本人児童生徒の意識の変容を促す授業実践が、今後益々求められている。

多文化教育は、1960年代から1970年代のアメリカで展開したエスニック・アイデンティティのリバイバル運動や公民権運動を背景に生まれた。日本における多文化教育への関心は、1980年代後半以降のグローバル化の進展によるニューカマーの増加に伴い、多文化的視点にたった教育改革の必要性が認識されるようになったことによって高まった。それにより多くの自治体では、在日外国人教育(多文化共生教育)のための「教育指針」や「指導の手引き」等が作成された。しかし、その実践においては文化の多様性や差異性に焦点を当てた脱政治化された異文化理解学習に関する実践が多くみられる。

これまでの日本における多文化教育の研究は主に理論的研究を中心とし、比較教育学や異文化間教育学、教育制度学の分野を中心に制度的、政策的研究が多く行われてきた。なかでも、在日韓国・朝鮮人であるオールドカマーや日系南米人をはじめとしたニューカマーの外国人児童生徒の教育支援の問題を中心に実践・研究されてきた。実践的研究としては、多文化カリキュラムの開発や理論を中心に、海外のカリキュラム開発を対象として、カリキュラムの構成原理やカリキュラム・デザインについて論じられることが多かった。近年の多文化教育研究では、「多様性の尊重」にむけた教育だけではなく、多文化教育の本来の目的である差別や偏見、抑圧に立ち向かい軽減し、平等で公正な社会の実現を志向した「社会正義の実現」のための理論や実践が模索されている。例えば、社会系教科における多文化教育の理論と実践に関しては、森茂岳雄・川崎誠司・桐谷正信・青木香代子編著『社会科における多文化教育 - 多様性・社会正義・公正を学ぶ - 』(明石書店、2019年)がある。また、最新の研究動向を踏まえた多文化教育の理論と実践については、森茂岳雄監修、川崎誠司・桐谷正信・中山京子編著『国際理解教育と多文化教育のまなざし - 多様性と社会正義/公正の教育にむけて - 』(明石書店、2023年)が挙げられる。特に、『国際理解教育と多文化教育のまなざし』では、「多様性」や「社会正義/公正」の視点に立った国際理解教育及び多文化教育の理論と実践に関する近年の内外の研究成果が収録されている。

本研究は、このような日本における多文化教育研究の動向を踏まえたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多文化教育の教材開発を行い、開発した教材を実践にかけ、その教材開発の有効性を検証し、その検証を踏まえ、開発した教材を再構築することである。

3. 研究の方法

本研究では、第一に、地域の多文化共生の在り方を地域の結びつきや変容、持続可能性に眼目した教材開発構想はどうあるべきか、第二に、学習者一人一人が多様性を尊重し、マジョリティの社会的な特権性を認識させるにはどのような教材を開発することが有用であるか、第三に、マジョリティとマイノリティの間に、無意識の権力関係が存在していることに気づき、その打開策を提案することができる教材をどのように開発すればよいかの3点を明らかにする。

なお、以下の手順で研究を進める。

多文化教育における教材開発及び授業実践に関する資料収集

今までに蓄積された日本の学校教育における多文化教育の教材開発及び授業実践を中心に文献収集を行う。

フィールド調査

外国人集住都市である静岡県浜松市や近年、外国人住民数が急増している静岡県袋井市等や海外移住資料館(JICA 横浜)、ハワイ移民資料館(広島県広島市)等において、今現在の多文化共生の状況を把握し、教材開発の手がかりとする。

教材開発

中学校・高等学校における総合的な学習の時間や教科学習において活用できる、多文化教育教材を開発する。なお、アナログ及びデジタル教材を開発し、汎用可能な教材集を作成する。

教材実践

完成した教材を、「国際理解教育ファシリテーター養成講座」(主催:浜松国際交流協会、共催:はままつ国際理解教育ネット/JICA 中部)や教員研修等の中で実践し、教材の有効性について検証し、教材の再構築に繋げる。

4. 研究成果

多文化教育における教材開発及び授業実践に関する資料収集

今までに蓄積された日本の学校教育における多文化教育の教材開発及び授業実践を中心に文献収集を行った。日本における多文化教育の研究は、これまで主に理論的研究を中心とし、比較教育学や異文化間教育学の分野を中心に制度的、政策的研究が進められてきた。一方、実践的研究として、カリキュラム開発・論がある。これらは、カリキュラム構成の原理やカリキュラム・デザインを提言・提案する研究である。海外のカリキュラム構成の原理やカリキュラム・デザインに関する提言を、日本の学校教育における多文化教育の教材開発及び授業実践の中で、カリキュラムに具体的に応用・発展していくことの必要性が再確認された。

フィールド調査

静岡県浜松市及び近隣の袋井市での多文化共生状況の調査、海外移住資料館（JICA 横浜）及びハワイ移民資料館（広島市）における多文化教育教材作成のための資料・史料調査、津島市立東小学校（愛知県）での総合学習「津島市 SDGs 未来都市プロジェクト」からの地域課題に根差した多文化教育授業実践のための情報収集調査を行った。これらのフィールド調査から、地域の多文化共生の在り方を地域の結びつきや変容に着目しながら、多文化教育における教材開発の作成、過去に海を渡り世界の国々で移民として暮らしてきた日本人移民や日系人から地域に根差した多文化教育の教材開発の試みの重要性、児童生徒が地域の未来に関心をもち、積極的に地域社会に参画し、多様性の尊重及び社会正義の視点から考察することのできる教材開発が求められることが明らかとなった。

教材開発

中学校・高等学校の総合的な学習（探究）の時間や社会科及び地理歴史科、公民科において活用可能な多文化教育教材の開発を行った。なお、参加型学習を用いた『多文化教育・国際理解教育教材ヒントブック』（図1）をはじめとしたアナログ教材及びアニメーション（デジタル教材）（図2）を開発した。

教材実践

公益財団法人 浜松国際交流協会主催、はままつ国際理解教育ネット・JICA 中部共催の「国際理解教育ファシリテーター養成講座 2023（入門編）」や特定非営利活動法人 八王子国際協会主催の「国際理解教育講座」、浜松市中学校社会科研究部研修会の教員研修、JICA 中部主催の「開発教育指導者向け 多文化共生研修」、静岡県内を中心とした県立高等学校における総合的な探究の時間における講座など、教員や社会人、中学生、高校生を対象に教材実践を行った。これらの実践を重ねながら、教材の有効性について検証し、教材の再構築に繋げた。



図1 多文化教育・国際理解教育教材ヒントブック

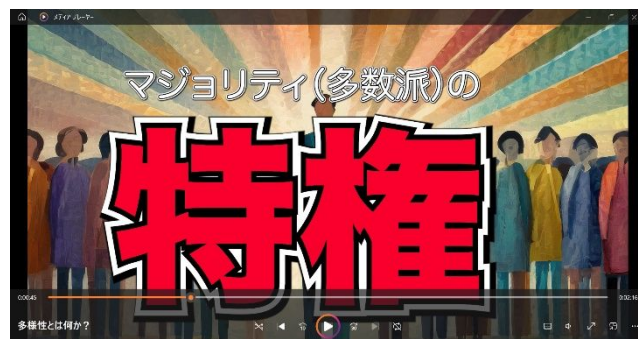
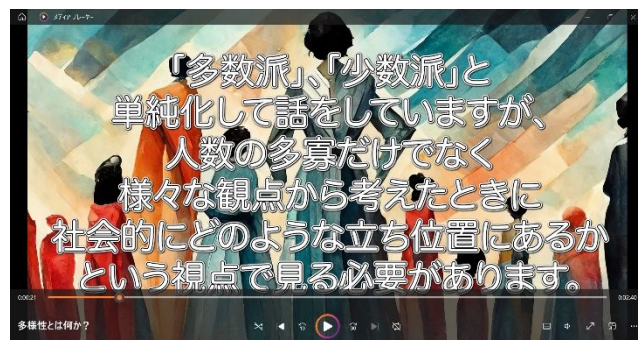


図2 アニメーション「多様性とは何か？」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中澤純一	4. 巻 37
2. 論文標題 中等学校社会系教科における日系移民学習の可能性 - 社会正義の実現を視点として -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教職課程研究年報	6. 最初と最後の頁 50 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤純一	4. 巻 第17号
2. 論文標題 中等学校の社会系教科のカリキュラム・マネジメントにおける多文化教育の可能性（1） - 高等学校公民科「公共」を手がかりとして -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京未来大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 127 138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中澤純一
2. 発表標題 日系移民学習における「社会正義の実現」に焦点をあてた単元開発 - 多文化教育の視点を手がかりとして -
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中澤 純一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 多文化教育の授業開発と実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------